

令和7年度第1回図書館協議会会議録

【日時】 令和7年7月5日（土）午前10時00分～正午

【場所】 キックス1階 集会室

【会議次第】

1. 開会
2. 任命辞令の交付
3. 教育長あいさつ
4. 委員及び事務局の紹介
5. 会長の互選、副会長の指名
6. 令和7年度組織目標及び予算概要について
7. 令和7年度図書館事業評価について
8. 第4次子ども読書活動推進計画数値目標の実績および次期子ども読書活動推進計画の策定について
9. 令和7年度図書館協議会の開催予定について
10. 閉会

【出席者】

（委員）尾谷雅彦会長、佐藤敏江副会長、
出石照美委員、今井佳代子委員、河浦和哉委員、小滝孝文委員、
西村一夫委員、早川和代委員、三根ゆみ委員
（事務局）小川教育長、尾西教育推進部長、山本社会教育第2課長兼図書館長、
森田主幹（司会）、青木主幹兼図書館サービスグループ長、
福井主査（記録）

【傍聴者】 0人

【会議資料】

- | | | |
|-------|--|--|
| 次第4関係 | ・河内長野市図書館協議会委員名簿（当日配付） | |
| 次第6関係 | { <ul style="list-style-type: none">・令和7年度図書館予算の概要・河内長野市第5次総合計画後期基本計画（抜粋）・教育大綱・教育推進プラン体系図・令和7年度河内長野市教育推進プラン令和7年度の主な取組み（抜粋） } | |
| 次第7関係 | | { <ul style="list-style-type: none">・令和6年度図書館事業評価結果について・河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針に基づく事業計画（令和7年度）・図書館事業評価に係るお知らせ便（令和7年7月） } |
| | | |
| | | |

- | | | |
|---------|---|--|
| 次第 8 関係 | { | ・河内長野市第 4 次子ども読書活動推進計画について
(数値目標の実績) |
| | | ・河内長野市第 4 次子ども読書活動推進計画
・河内長野市子ども読書活動推進計画の次期策定について
・国 第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の概要 |
| 次第 9 関係 | | ・令和 7 年度河内長野市図書館協議会の開催予定 |

1. 開会

2. 任命辞令の交付

3. 教育長あいさつ

4. 委員及び事務局の紹介

(事務局)

事務局から出席委員が 9 名であり、河内長野市図書館協議会規則第 3 条第 2 項の規定により本会議が成立したとの報告。引き続き委員および事務局職員の紹介。

5. 会長の互選、副会長の指名

6. 令和 7 年度組織目標及び予算概要について

(会長)

それでは、次第 6 の「令和 7 年度組織目標及び予算概要について」事務局から説明をお願いいたします。

(事務局から説明)

…資料「令和 7 年度図書館予算の概要」「河内長野市第 5 次総合計画後期基本計画（抜粋）」「教育大綱・教育推進プラン体系図」「令和 7 年度河内長野市教育推進プラン 令和 7 年度の主な取組み（抜粋）」に基づき説明

(会長)

ありがとうございました。今の事務局の説明に関してご意見がありましたらご発言をお願いします。ご質問でも結構です。

(委員)

教育推進プラン目標 13 社会教育の推進で令和 7 年度に実施する教育施策として「公

民館と小学校の複合化【重点】とありますが、今加賀田小学校で進めている複合化のことでしょうか。

(事務局)

そうです。担当は社会教育第1課になります。

(委員)

他の小学校でも同様に進めていくということですか。

(事務局)

そうですね。加賀田公民館と小学校の複合化が完了いたしましたら、小学校全校というわけにはいきませんが、順次進めていくことになります。

児童・生徒が減り学校が小規模化する中で、学校をどのように運営していくかという方針を定めた「河内長野市学校のあり方の方針」というものがありまして、その中で小規模化したときの1つの方策として、今進めている複合化でありますとか、南花台で進めました施設一体型小中一貫教育を地域の事情を見ながら、今後どうしていくのかを考えているところです。まず複合化については今加賀田で行っており、今後状況を見ながら進めていくということになります。

(委員)

加賀田小学校は自宅の近くなので、どのようになっていくのかとても楽しみにしています。私個人としては小学校と公民館の複合化はすごくいいことだと思っています。高齢者も子どもと接することができますし、子どもにとっても高齢者と接することでプラスになることが多いのではないかなと思いますので、すごく期待しています。

(事務局)

市としても重点的に取り組んでいるところです。

(会長)

よろしいですか。他にご質問はございませんか。よろしければ次に進めていきます。

7. 令和7年度図書館事業評価について

(会長)

それでは次の次第7に移ります。次第7「令和7年度図書館事業評価について」事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

…資料「令和6年度図書館事業評価結果について」「河内長野市立図書館の事業の

実施等に関する基本的な運営の方針に基づく事業計画（令和7年度）」「図書館事業評価に係るお知らせ便（令和7年7月）」に基づき説明

（会長）

説明ありがとうございます。ちょっと資料がたくさんありますので、なかなかご意見が出しづらいかもしれませんが、単純なところでも結構です。

（副会長）

2つ質問があります。まず次第7 関係資料②の5 ページ事業評価数値目標のところ、令和7年度の1年間の受入れ冊数目標値が1万2千冊となっているんですね。4年度、5年度の実績は1万1千冊程度だったのが、去年は1万700冊に下がってる。購入と寄贈の合計ということですが、本の単価自体は、令和5年のデータしか今私の手元にはないのですが、1冊1,305円で平均価格が上がっているんですね。その前が1,268円ですから確実に上がっていつている。そういう中で目標値が1万2千冊というのは、昨年度個人の方からたくさん寄贈本を受け入れたという関係で目標冊数がはね上がっているんでしょうか。それともその寄贈冊数はもう昨年度の数字に入っているんでしょうか。これが1点目の質問です。2点目は同じ事業評価数値目標の登録率が登録者数÷人口となっています。その1つ下の広域登録者の占める割合というところでは広域登録者÷登録者となっています。市内の登録者率というときには、広域登録者数を登録者数から除外して計算しているのかどうかというのをちょっとお聞きしたいと思います。

（事務局）

1年の受入冊数の質問からお答えいたします。市内の方から寄贈いただいた植物関係コレクションの受入れも加味はしています。ただ、今おっしゃっている通り購入する資料の単価がどんどん上がっている状況にあるので、目標としては1万2千冊なんですけども場合によっては難しい可能性もあります。雑誌についても、年々すごい勢いで値上がってしまっていて、休刊する雑誌があるにもかかわらず予算が足りなくなるという状況です。

（副会長）

ちょっと多いかなと思いました。達成が可能とわかっている数字を目標で出すというより、チャレンジしましょうということですね。

（事務局）

購入冊数の予算は現状維持で変わっていないのですが、確かに単価が上がっておりますので、購入分だけで見ると受入れ冊数は減になる可能性はありますが、先ほどおっしゃった植物関係コレクションだけではないんですけれども、市民の方などからの

寄贈本、特に文庫本が多いのですが、それを今現在、図書館の蔵書で古くなってしまったものの差し替えに使わせていただいて、新しく登録して蔵書を更新するということとしております。ちょっと高い目標かとは思いますが購入本と寄贈本を合わせて頑張りたいと思っております。

(副会長)

近年は図書館職員が本の装備をするのではなくて、おそらく業者さんがされていると思います。ラベル貼りから全部の業務が予算の中に委託料として入ってくると思うのですが、それは大丈夫ですか。

(事務局)

寄贈本の装備委託料もある程度確保はしておりますので、計算はしております。登録者率に関する質問については、今手元に計算式がなく、はっきりと答えられなくて申し訳ございません。また、次回図書館協議会でお答えしたいと思います。

(副会長)

そうですね。広域登録者数も含めているかいらないかで、ちょっと変わってくるころがありますので気になりました。

(会長)

他にございますか。

人口減少が急激に起こっている中で、この数値目標に影響を与える部分はどこなんですか。あるいはその計算式を考え直すということはないんですかね。

(事務局)

本当に本市は人口が急激に減っております。10万人を切って9万7千人、もう間もなくその7千も切りそうぐらいの減り方にはなっていますので、そのあたりは加味していく必要はあるとは考えておりますが、広域利用者、それを含まない場合もございますけれども、交流人口の増加ということで広域利用の方も少し増えてきておりますのでそのあたりのことも考えながら、今後数値目標などを考えていきたいと思っております。

(副会長)

他市を利用している方の数値はなかなか掴めないものなんですよ。

(事務局)

他の自治体に個別に調査しないといけません。

(副会長)

利用者が多いとか入館者が多いからいいというんじゃなくてやっぱり質の部分がありますので、こういうところに質がなかなかうまく持ってこられないのが残念なんですけどね。何かうまく質を表現できるものがあればいいのですが。

(会長)

最終は委員の皆様方に評価していただかなければならないと思うんですが、基本的にこれはどういうことなんだろうと思われることはないですか。

(委員)

次第7 関係資料②の事業評価数値目標の下の図書館関係統計（参考）で、令和5年度と6年度では、例えば貸出冊数が80万2,965冊と80万1,826冊になっています。これは令和2年度、3年度からは回復傾向にあるということで、多分最初の方の自己点検のところでそのように書かれているかと思うんですが、細かく見ていましたら、要するに開館日数がどれだけあるかによって、この数値がもちろん変わるわけですよ。例えば令和5年度の開館日数291日なので80万2965冊÷291日だったら1日当たり2,759冊。それが令和6年度は約80万冊なんですけども、開館日数が301日あるんですよ。そうすると1日当たり2,664冊。つまり1日あたり100冊ぐらい減っている。回復基調にはあるんですが、何とかもう少し頑張って持ちこたえていただきたいと思います。登録者1人当たりの貸出冊数にしても、令和5年度は15冊だったのが6年度は14.6冊だから、図書館に来てそこで借りて帰るという本の数がちょっと減っています。1人が今までは5冊借りていたのが4冊になっちゃっているとかですね。そういうふうなことで、全体としては回復傾向かもしれませんがやっぱりまだまだマイナスになっていて、これもちろん人口が減っているという大きな問題が横たわっているんですけども、それだけでいいのかというのも図書館としてはありますので、そうした認識だけは持っていただけたらなと思います。

(会長)

ありがとうございます。

(副会長)

今の発言にプラスするんですが、インターネットの普及や電子書籍などもあつたりして、なかなかこれからは伸びにくいのかなとは思いますが。これは貸出冊数ですから電子書籍の利用については、ここには含まれていないんですよ。備考のところでもいいですから、そのあたりのことも書いておいてはいかがでしょうか。電子書籍の利用についても数値目標に取り込んでいくという方法も考えられてもいいのではないのでしょうか。電子書籍はコンテンツが限られていて、図書のように千差万別ということはないので、利用が伸びにくいかなとは思いますが、昨今の気候なんかを考えます

と外に出にくいですから、それを売りにして電子書籍を利用させていただくとかですね。それから暑いですから、電気代を節約するためにも図書館に来て本を読みに来てください、涼みに来てくださいというPRもありだと思えます。だからそういうものをうまく売り込んでいくという方法があればいいかなと思います。

(委員)

ものすごく素朴な質問ですけど、この図書館というのには公民館は入らないんですか。私は自宅がこの図書館まで遠いから、たいていネットで全部予約しているんです。公民館に予約本が着きましたと連絡があれば、公民館に取りに行くんです。だから図書館を利用しているのと一緒に私は思っているんですね。けれども図書館利用者数とおっしゃるから、ここの図書館のことだけの人数なのでしょうか。私は図書館が購入した本を公民館で借りているので、図書館の代わりに公民館を利用しているという気持ちでいるんです。私は図書館はひと月に1回か2回ぐらいしか利用しませんが、公民館はしょっちゅう行っているんです。だから、その人数は入らないのかなと思ひまして。

(事務局)

図書館利用者数の中には公民館図書室の利用者数と自動車文庫の利用者数も含めて算出しております。

(委員)

そうですか。なぜそこまで利用者数にこだわっているのでしょうか。図書館には涼みに来ているのかなと思うような人がいっぱいおられますよね。でも公民館の利用者は本を借りに行っていて、自動車文庫も同じだと思うので、そちら方が実質的には図書館を利用していると思います。私は読みたい本をネットで予約して借りて、たくさんの方が待っている本の場合はそれを優先的に読んで、とにかく早く次の予約者に回さないとと思って一生懸命頑張って読んでいるんです。1ヶ月に4〜5冊どころか10冊ぐらいは読みますから。そういう隠れた利用者もいるということで駄目なんですか。

(副会長)

どこの図書館もそうなんですけど、私が勤めていたところもそうなんですけど、目標を掲げてそれがどうなったのかを示すためには、目に見えるように数値で出すしかないんですよ。「大変よくできましたね」では、その「大変」は何なのかということになります。やはり数値で評価されるんです。ただ数値で出しちゃうとより上に行く方を志向しがちですから、人口も減っているし、色々と予算も減っているとなると、必ずしもずっと上向きというわけにもいかず、一体どこまで行けばいいのかという話になるんです。だから本当は例えば図書館の滞在時間とか、そういうことも含めて質

的な部分が出せればいいんですけども、それがなかなか出しにくいんです。それと図書館には交流の場という側面もありますので、昼寝をしに来ている方がいるかもしれないけど、でもその人も新聞や雑誌を読んだりすることもあります。本を読まないなら図書館には来てはいけませんよということじゃないんで、そういう人も含めて、利用者と考えているんです。ここだけじゃなくて、どこの図書館も質と目標数値については悩ましいんです。

(委員)

そうですか。それが図書館にとってプレッシャーになっているなら、一市民として面目ないと思います。それと全く別の話になりますが、私の家族が近隣市に習い事に行っているのですが、そこで一緒に習っている人から本市の図書館はすごい、とても羨ましいと言われているそうなんです。自治体の財政状況から考えるとその近隣市の方が本市よりも裕福なのではないかと私は思うのですが、本市は人口も減り財政的にも厳しい状況であるにもかかわらず、これだけ立派な図書館があるということは私としては有難いし誇りに思っています。だからもうそれでいいんじゃないのかと思ってしまいました。

(副会長)

ものすごく嬉しい話ですよ。

(委員)

私は本市はすごいんだよって言いたいんですね。だからそんなにプレッシャーをかけなくてもいいのではないのでしょうか。

(委員)

本市の図書館の蔵書については私もいいと思っています。私は別の市に住んでいるんですけど、その図書館のホームページから自分が読みたい本を探すとなかったりするんですよ。それで大阪府立図書館のホームページで、府内全図書館の蔵書検索ができるんですけど、それで探してみたら本市や他の市にはあって、これぐらいは所蔵しておいてほしいなと思うことが結構あります。だから本市は蔵書も結構いい本を所蔵しているなという印象は持っているんです。だから、もちろんそういうこともあって図書館としては非常に頑張っておられるというのは、個人的には評価しているんです。しかし本協議会としては、頑張っているけどこういうこともさらにもう少し追求してくださいねと言っておかないといけないという気がするんですよ。

(副会長)

確かに図書館の職員は頑張っています。また他の自治体の図書館協議会の話を知ると、意見を聞かれても委員の皆さんは「はい」くらいしか言わないそうです。私が本

協議会で委員の皆さんに意見をどんどん言ってくださいというのは、きっとこういう場で皆さんが発言されることで、図書館職員も学んでいることもあると思いますし、発言された方の説明を聞いてわかると思うんです。図書館は利用者に育てられています。私自身もそう経験しております。だからクレームは困るんですけど、提言というのは非常にありがたいことなので、これからも質問や提言をよろしくお願いします。

(会長)

それでは少し時間が予定を過ぎましたので、次の議題に進みたいと思います。

8. 第4次子ども読書活動推進計画数値目標の実績および次期子ども読書活動推進計画の策定について

(会長)

それでは次第8「第4次子ども読書活動推進計画数値目標の実績および次期子ども読書活動推進計画の策定について」事務局から説明をお願いします。

(事務局からの説明)

…資料「河内長野市第4次子ども読書活動推進計画について（数値目標の実績）」「河内長野市第4次子ども読書活動推進計画」「河内長野市子ども読書活動推進計画の次期策定について」「国 第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の概要」に基づき説明

(会長)

ありがとうございます。次回の協議会で素案が示されるんですね。

(事務局)

はい。

(委員)

先ほどの説明にあったアンケート結果は第2回の協議会でわかりますか。

(事務局)

はい。

(委員)

アンケート結果を知らない状況で数値だけを見たところなんですが、まず図書館から小・中学校への団体貸出冊数が令和7年度の数値目標が令和6年度の実績の倍近い

数値になっています。これはとても挑戦的だと思うんですが、私は嬉しく感じています。しかし地域の方は、私は放課後児童会への貸出冊数かなと思っているんですが、そちらは横ばいになっています。アンケートで多分出てくると思うんですけど、図書館に来るという目的が、やはり子どもが本を借りたいと思っているということと、あと保護者が子どもに本を読ませたいと思うところだと思うんです。私は赤ちゃん訪問に行っても思うんですが、今の親たちは育休中に図書館へ行かれますかと私が質問しても、まだちょっと行けていないですと言われますし、上のお子さんがいてもあまり行ったことがないと言われて、もったいないなあと思うんです。親が連れて行けない状況で、学校図書室への貸出冊数を倍以上にするという数値目標ですが、1回に持っていく量を多くするのか、貸出の回数を増やすのかなど、目標を達成するための方法をちょっと聞きたかったです。それと放課後児童会に行っている児童はとて多いと聞いているのですが、その放課後児童会など地域への貸出冊数が横ばい状態ということは、この冊数を放課後児童会 22 個所に分けるとすると学校図書室の蔵書冊数と比べてもすごく少ないです。それは放課後児童会での過ごし方にもよるとは思いますが、やはり本に触れる機会をたくさんつくる意義はともあると思うんです。私は自分の子どもが小さかった頃は毎日図書館に通って子どもに読み聞かせをしてきましたが、やはり絵本を読んでもらった子どもは中学生になっても高校生になっても本を読む子に育っていくというのを感じています。今の子ども達の保護者にそういうことを伝えてもなかなか時間をつくることができないというのであれば、学校の図書室で色々な本に触れる機会をもつことが重要だと私は考えています。放課後児童会でもそのような時間を多く設けることがいいのではないかと思います。最後に、学校図書室のことですが、中学校で活字離れや貸出冊数が少ないという状況について、思春期の子どもにとって色々な新しい情報を吸収したいがために、本を読まなくなってくるという傾向は昔から変わらないかと思います。司書の数が、やはり中学校になると減るのか、週に何日だけいるとなっているようで、小学校も司書の人数が減っているように思うんです。図書室を閉鎖されている曜日が多いということも貸出冊数が増えないことに関係していると思うので、そういうところに読み聞かせなどのボランティアが入っていけばいいなと思っています。数値目標を倍に設定しているというのは何か対策をとられた結果のものなののでしょうか。

(事務局)

第4次子ども読書活動推進計画が令和2年度に策定作業をしており、数値目標は5年前に立てたものになります。この数値は毎年改定しているわけではないので、ちょっと今の現実とそぐわないものになっています。計画の策定時には、人口減少でありますとか、学校への団体貸出冊数の減少というのは、ここまで想定はできておりませんでした。先ほども説明しておりましたが、計画の策定作業時はコロナ禍の期間でもありましたので、このコロナ禍以前の平成30年度の数字に戻すというのを目標にして、数値目標をその当時に決めましたので、計画に挙げている数字はその次の計画の

改定まで変えることはできず、そのまま6千が数値目標になっています。そのため今回の改定の時には、どういう指標を立てればこの計画がうまく機能しているかをはかることができるか考え、指標を変えるかもしれません。目標の数字も含めまして、次の計画策定時にもう少し精査して目標は定めたいと考えています。

(委員)

つまり放課後児童会への貸出冊数のこの横ばい状態に対する数値目標も同じということですか。

(事務局)

そうですね。

(委員)

数値目標に関してはわかりました。次回アンケートの結果が分かったら意見を出したいと思います。

(事務局)

貸出冊数が減っていつている状況は、課題として認識しないといけないと思います。また数値目標としてコロナ前に戻すということも、現実的にはコロナによって色々な社会環境も変化していますので、コロナ前に戻すというよりは、今の社会環境などの実態を見ながら、この減っていることの課題がどこにあるのかというのをしっかりと分析して、その上で次期の数値目標を設定するべきですし、今年度もどう取り組んでいくのかというのを、改めて確認しながら進めていきたいと思っております。またそれには放課後児童会や学校図書室も含めて考えてまいります。

(会長)

よろしいですか。

(委員)

おはなし会のことでちょっといいですか。資料の数字を見ていると、コロナ前よりもおはなし会の参加者数が若干ですけど増えているじゃないですか。私はコロナ前のことは人からの話で聞いているだけなのですが、おはなしのへやを閉めて中で落ち着いておはなしを聞くというスタイルだったと思うんです。それはおはなしをする側にしたら、非常にありがたいことではあるんです。おはなしのへやを開放した状態だと子どもが自由に出入りしやすい環境になっちゃうんで、おはなしをやる方としたらちょっと大変なんです。ただ開放していると外から見ていて、こんなことをやっているんだという、おはなし会に参加するハードルが下がると思うんですよ。それで何か面白そうと思って、そこでちょっと立ち止まって見てくれたり、外のところで椅子に座

って見てくれるみたいなことは、この少し増えている数字に表れているのかなあと思っています。おはなし会は、おはなしや絵本をきちんと伝えたいという気持ちはあるんですけども、でもとりあえず絵本とかおはなしって面白いよねと思ってもらうっていうことも1つの大事な役割かなあとと思います。コロナ前の状態ではなくて今の状態でおはなしをやる方はちょっとドキドキすることはあるんです。でも小学生でもそうですけど、中学生ぐらいになると字の本を読むことはものすごくハードルが高いと思う子がいますよね。だからおはなし会でハードルをぐっと低くして、何か読むことはちょっと面白いなというところから入ってもらうことはすごく大事かなあと 생각합니다。おはなし会も含めて、あと子ども達がパッと手に取りやすいところに、例えば放課後児童会であるとか、自分の通っている学校に、図書室だけじゃなくてもうちちょっとたくさん本があるとか、そういう状態をどんどん作ってあげることがすごく大事なのではないかなあと 생각합니다。

(会長)

ありがとうございます。では、次第8についてはこれで終わらせていただきます。

9. 令和7年度図書館協議会の開催予定について

(会長)

それでは次第9「令和7年度図書館協議会の開催予定について」事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

…資料「令和7年度河内長野市図書館協議会の開催予定」に基づき説明

(会長)

それでは委員の皆さま方には先のことになりますが、予定を入れていただきたいと思います。それでは、質疑がないようでしたらこれで終わりにさせていただきます。

10. 閉会

(事務局から閉会のあいさつ)

(会長)

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回河内長野市図書館協議会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

以上